

Ampex

SVT-3 PRO

Bass Guitar Amplifier



取扱説明書



目次

はじめに	2
本機の特長	2
各部の名称と働き(フロントパネル)	3
各部の名称と働き(リアパネル)	5
基本設定例	7
故障かな?と思われる前に	8
システムブロック図	8
技術仕様	9



はじめに

SVT-3 PROは、Ampeg SVTシリーズの音楽的でリッチな音色と、伝説とも言うべき高性能をさらに発展させた製品です。驚異的パワーを誇るベースアンプSVT-3 PROは、高品位なサウンドと450Wという驚異的な高出力を実現し、信頼性や音色の柔軟性に優れ、古典的真空管サウンドと最新鋭の機能を兼ね備えています。

この取扱説明書では、SVT-3 PROに関するすべての操作方法と機能について詳しく説明しています。実際にご使用になる前に、一通りお読みになることをお勧めします。

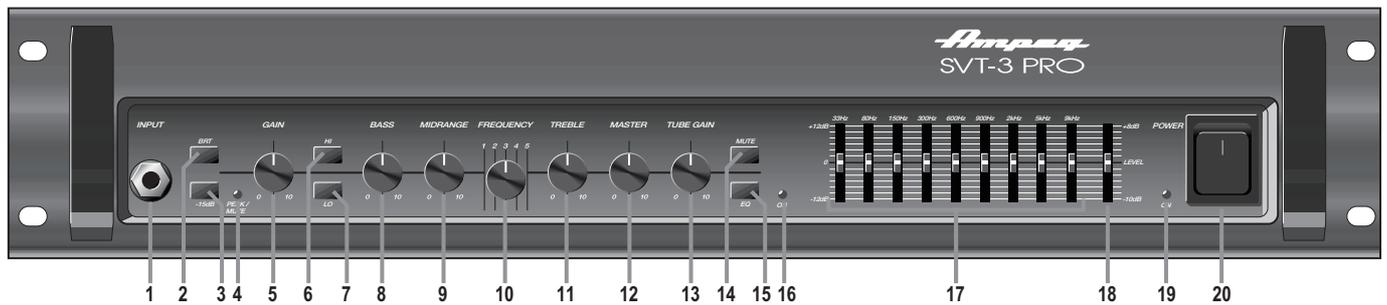
本機の特長

高性能ベースアンプの分野では、SVTシリーズは孤高ともいえるべき存在です。伝統的なAmpeg製品と同様、SVT-3 PROはクラスを越えた性能と柔軟性を誇ります。ここでは、他の競合製品に比べて特に優れた点を紹介しましょう。

- 5つのポジションから選べるミッドレンジセクターを装備
中心周波数を5つのポイントから選び、中音域の音色を調節できます(3ページ)。
- チューブゲインコントロールを搭載
パンチのあるサウンドからコンプレッサーのかかったようなサウンドまで、パワーアンプから出力される信号の音色を自由にコントロールできます(3ページ)。
- 9バンドのグラフィックEQを内蔵
ベースソロ用の2番目のチャンネルとして、あるいは個性的な音色を作り出すエフェクトとして利用できます。グラフィックEQのレベルを独立して調節するレベルコントロールも装備しています(4ページ)。
- バランス／アンバランス仕様のライン出力端子
PAミキサー、レコーディングミキサー、パワーアンプなどに接続し、独立してレベルを調節可能なXLR端子と1/4"端子を装備しています(5ページ)。
- エフェクトループ
エフェクターをこの端子に接続すれば、入出力レベルが高く、ノイズの少ないエフェクト処理が行えます(6ページ)。
- パワーアンプ入力端子／プリアンプ出力端子を装備
外部プリアンプを本機のパワーアンプ入力端子に接続したり、外部パワーアンプ(子機アンプ)を本機のプリアンプ出力端子に接続できます(6ページ)。



各部の名称と働き(フロントパネル)



1. INPUT (インプット) 端子
シールドコードを使ってお手持ちのベースギターを接続する端子です。
2. BRIGHT (ブライト) スイッチ
このスイッチをオンにすると、入力信号にハリのある高音域が加わります。
3. -15dB スイッチ
このスイッチをオンにすると、入力信号が15dB減衰されます。アクティブタイプのベースギターを使用する場合は、このスイッチをオンにして楽器の出力を最適なレベルに調節してください。
4. PEAK (ピーク) LED
プリアンプのレベルがクリップレベルに近づくと、このLEDが点滅します。最適なゲイン設定を得るための目安となります。
5. GAIN (ゲイン) コントロール
プリアンプのゲインをコントロールします。強く弾いたときのピーク部分でピークLEDが点滅するように(ただし、演奏中は頻繁に点滅しないように)、このコントロールを調節してください
6. ULTRA HIGH (ウルトラハイ) スイッチ
このスイッチをオンにすると、5kHzの周波数帯域を6dBブーストして高音域を強調します。
7. ULTRA LOW (ウルトラロー) スイッチ
このスイッチをオンにすると、特に低い方のE弦やB弦(5弦ベース使用時)の重低音が強調されます。
8. BASS (ベース) コントロール
低音域をコントロールします。50Hzを中央周波数として、最大12dBのカット(左へ回しきったとき)またはブースト(右へ回しきったとき)を行います。このコントロールが中央の位置にあるときは、低音域がフラットになります。
9. MIDRANGE (ミッドレンジ) コントロール
中音域をコントロールします。フリケンシーコントロール(10)で設定した中央周波数を最大で15dBカット(左へ回しきったとき)またはブースト(右へ回しきったとき)します。このコントロールが中央の位置にあるとき、中音域がフラットになります。
10. FREQUENCY (フリケンシー) コントロール
ミッドレンジコントロールで操作する中央周波数を切り替えるコントロールで、中音域の“音色”を5種類の中から選択します。
選択可能な中央周波数は、1 = 220Hz、2 = 450Hz、3 = 800Hz、4 = 1.6kHz、5 = 3kHzです。
11. TREBLE (トレブル) コントロール
高音域をコントロールします。5kHzを中央周波数として最大19dBのカット(左へ回しきったとき)または14dBのブースト(右へ回しきったとき)が行えます。このコントロールが中央の位置にあるとき、高音域はフラットになります。
12. MASTER (マスター) コントロール
本機の最終的な出力レベルをコントロールします。ゲインコントロール(5)はできるだけ高めに設定し、このコントロールを使って好みの音量に調節してください。
13. TUBE GAIN (チューブゲイン) コントロール
チューブゲインコントロールは、パワーアンプの真空管に送られる高電圧を変化させます。このコントロールを使えば、パワーアンプ部の音色面の特性を変更したり、典型的なソリッドステートタイプのパワーアンプに搭載されているリミッターのような効果を得ることができます。
このコントロールを“10”に設定すると電圧が最大となり、力強くハリのある音色になります。“0”に設定すると電圧が最小となり、重厚でコンプレッサーのかかったような音色となります。また、音量レベルの設定次第では、この音色を歪ませることも可能です。通常はパワーアンプを最大までドライブしたときに、耳ざわりな歪みが生じない範囲で音量を設定するのがベストです。パワーアンプをドライブさせるほど、チューブゲインコントロールの効果が顕著になります。
注意： チューブゲインコントロールを“10”から“0”に素早く回すと、出力がミュートされると同時に低周波のハムが発生します。これは、真空管の

DCバイアス値の変動に伴って起こる現象で、故障ではありません。また、“0”から“10”に素早く回したときは、電源供給用コンデンサーに充電が行われるため、反応が若干遅れます。

14.MUTE(ミュート)スイッチ

チューナー出力端子(リアパネル(28))を除き、すべての出力をミュートするスイッチです。フロントパネルのミュートスイッチがオフに設定されているときは、ミュート操作をフットスイッチで行うことも可能です(フットスイッチを接続したままでも、フロントパネル上のミュートスイッチは利用できません。このスイッチを使えば、楽器用チューナーを使ってチューニングするときにいちいち出力レベルを下げる必要がないので、非常に便利です)。

15.GRAPHIC EQ(グラフィックEQ)スイッチ

9バンドのグラフィックEQ(17、18)のオン/オフを切り替えます。このスイッチをオンにしたとき、もしくはフットスイッチを踏んだときに、EQのスライダーで調節した設定が有効になります。フットスイッチを利用するときは、このスイッチの操作は無効となります。

16.ACTIVE(アクティブ)LED

EQをオンにすると、このLEDが点灯します。

17.9バンドグラフィックEQ

これらのスライダー式コントロールは、各スライダーに記載された周波数帯域の出力レベルを調節します。スライダーが中央の位置にあるときはフラットとなります。スライダーを上げるとその周波数帯の出力レベルが上がり、スライダーを下げると出力レベルが下がります。

グラフィックEQには、次の2種類の使い方があります。

- 1) お好みの周波数帯域を微調節して、ベースの音色を調節する。
この場合は、演奏中は常にEQをオンにして使用します(演奏する会場が変わったときに、会場の音響特性に合わせて音色に調節するのに便利です)。
 - 2) 変化幅を大きめに設定して、全く異なる音色を作る。
この場合はベースソロ演奏時など、2番目のチャンネルが必要なときのみ、グラフィックEQをオンにします。
-

18.LEVEL(レベル)コントロール

グラフィックEQの出力レベルをコントロールします。このコントロールは、EQがオンのときのみ有効です。EQで加工したサウンドの音量が小さい場合は、このコントローラーでレベルを上げ、EQで加工したサウンドの音量が大きい場合はレベルを下げます。

19.ON(オン)LED

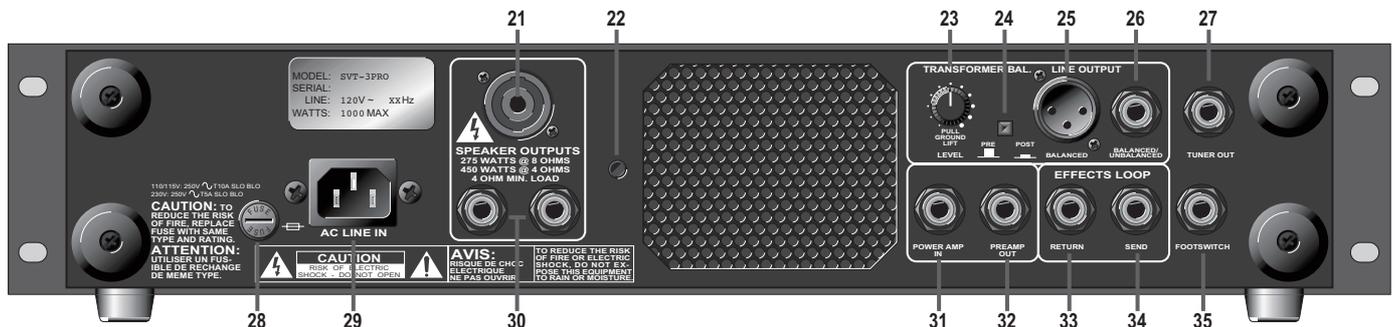
電源スイッチ(20)がオンのときに、このLEDが緑色に点灯します。

20.POWER(電源)スイッチ

本機の電源を入れる切り替え式スイッチです。上に倒した位置(1)でオンになり、下に倒した位置(0)でオフになります。

注意：電源をオンにしてから、保護リレー回路によりパワーアンプの出力が有効になるまで、多少時間がかかります。

各部の名称と働き(リアパネル)



21.SPEAKON(スピコン) 端子

アンプの出力レベルを最大にして演奏するときは、高出力にも耐える頑丈なスピコン端子を利用することをお勧めします。アンプとお手持ちのスピーカーキャビネットを接続するときは、終端にスピコンコネクターを備えた口径の太いスピーカーケーブルを使用してください。

22.RACK SUPPORT FASTENER (ラックサポート固定部)

本機をラックに設置する場合は、安全対策として、この挿入口を通じて補強材を本機に取り付けることをお勧めします。アンプにストラップを取り付けるには、口径が1/2"未満の1/4-20のネジを使用してください。

23.LINE OUTPUT(ライン出力)レベルコントロール

このコントロールは、バランス / アンバランス両方のライン出力端子(25、26)の出力レベルを調節します。このコントロールは、フロントパネルのマスターコントロールとは独立して動作します。このつまみを手前に引くとグラウンドリフトが有効となり、ハム音が遮断されます。

24.LINE OUTPUT SELECTOR (ライン出力セレクター) スイッチ

ライン出力端子からの出力信号として、EQ通過前の信号(プリEQ)または通過後の信号(ポストEQ)を選択するスイッチです。スイッチが押し上げられた状態ではライン出力端子からプリEQの信号が出力されます。この場合はすべてのEQやトーンコントロールの設定が無効になります。スイッチが押し込まれた状態ではライン出力端子からポストEQの信号が出力され、トーンコントロール、グラフィックEQ、エフェクトループを使って信号を加工できます。

25.BALANCED OUTPUT (ライン出力) バランス端子

PAミキサー、レコーディングミキサー、外部アンプなどのバランス入力端子に接続し、プリアンプのバランス出力信号を送り出すXLR端子です。この端子から出力される信号は、ライン出力セレクタースイッチ(24)を使ってプリEQまたはポストEQに設定できます。また、出力レベルはライン出力レベルコントロール(23)で調節します。

※ 6ページの【BALANCED OUT(バランス出力)について】の補足説明を必ずお読みください。

26.LINE OUTPUT (ライン出力) アンバランス端子

PAミキサー、レコーディングミキサー、外部アンプなどの入力端子に接続し、プリアンプのアンバランス出力信号を送り出す1/4"モノラル端子です。この端子から出力される信号は、ライン出力セレクタースイッチ(24)を使ってプリEQまたはポストEQに設定できます。また、出力レベルはライン出力レベルコントロール(23)で調節します。

27.TUNER OUT(チューナー出力) 端子

ミュートスイッチ(14)がオンの状態でも、この端子のみ信号が出力されます。この端子を利用すれば、楽器用チューナーを使って外部へは音を出さずにチューニングしたり、メインミキサーへの出力はミュートした状態でモニターミキサーのみに信号を送ることができます。

28.FUSE(ヒューズ)

オーバーロードやAC電源のサージ電流が原因で起こる故障から本機を守るためのヒューズです。切れたヒューズを交換するときは、必ず容量とタイプが同じヒューズのみをご使用ください。

29.AC LINE IN(AC電源) 端子

この端子に付属の電源コードのメスのプラグを差し、しっかり固定されるまで押し込んでください。オスのプラグは、グランド処理されたコンセントに接続してください。端子部のグランド用ピンを折ることは、絶対におやめください。



30. 1/4" SPEAKER OUTPUT

(スピーカー出力) 端子

終端に1/4"プラグを備えたスピーカーケーブルを使って、アンプとお手持ちのスピーカーキャビネットを接続するためのモノラル1/4"端子です(これら2つの端子は、内部で並列に配線されています)。

出力レベルを最大にして演奏するときには、スピコン端子を利用することをお勧めします(21を参照)。

31. POWER AMP INPUT

(パワーアンプ入力) 端子

外部プリアンプを併用するときには、本機のパワーアンプに直接信号を送るための入力端子です。外部ソースを使用する場合は、楽器用のシールドコードを使って外部機器の出力をこの端子に接続し、本機のパワーアンプ部へと信号を送ります。この端子にプラグが差し込まれていると、内部信号は切り離された状態となります。

32. PREAMP OUTPUT

(プリアンプ出力) 端子

本機のプリアンプからの出力信号を外部のパワーアンプなどの機器に直接送るための端子です。楽器用シールドコードを使って、この端子と外部パワーアンプの入力端子を接続してください。

33. EFFECTS LOOP RETURN

(エフェクトループリターン) 端子

外部エフェクターを使用するときには、楽器用シールドコードを使ってこの端子にエフェクターの出力端子を接続してください。エフェクターで加工した信号が本機に送られます。

34. EFFECTS LOOP SEND

(エフェクトループセンド) 端子

外部エフェクターを使用するときには、楽器用シールドコードを使ってこの端子にエフェクターの入力端子を接続してください。ポストEQの信号が外部エフェクターに送られます。

35. FOOTSWITCH (フットスイッチ) 端子

2ボタン式のフットスイッチ(Ampeg AFP-2Bなど)を接続して、ミュートとEQのオン/オフをリモート操作する端子です。ステレオ1/4"プラグのチップ部分でミュート、リング部分でEQのオン/オフをコントロールします。

EQをフットスイッチで操作する場合、パネル上のグラフィックEQのスイッチは無効になります。ただし、ミュート機能についてはフットスイッチとフロントパネルの両方で操作できます。

36. 底面の脚

本機をラックにマウントする場合、底面の脚を取り外した状態で、2U分のラックスペースが必要となります。取り外した脚やネジ類は、今後のために大切に保管しておきましょう。脚を再度取り付けるときは、元のネジよりも長いネジは絶対に使用しないでください。

37. リアパネルの脚

これらの大きな脚は、リアパネルを下に向けて本機を設置したときに、リアパネルの端子部を保護するために設計されています。本機をラックマウントする場合でも、これらの脚は取り外さないでください。

[BALANCED OUT (バランス出力) について]

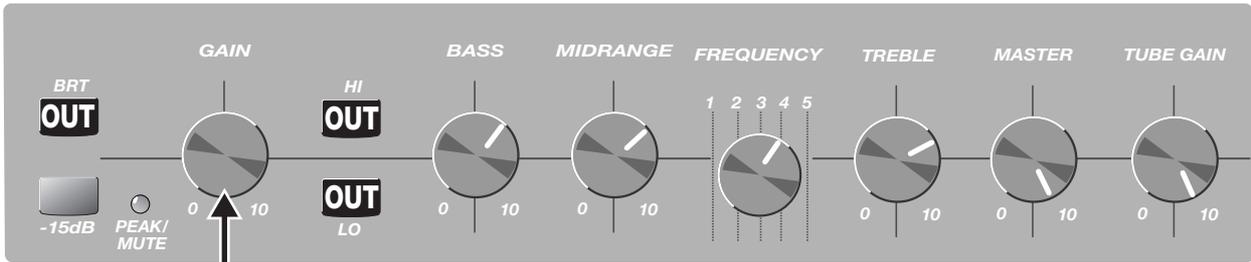
BALANCED OUTの使用に際して、日本国内では電源事情の違いから、使い方によってはノイズが発生する事があります。

その対処法としまして、本機の電源プラグを、アース工事がされたアース付き電源コンセントに接続すると、ノイズが軽減される事があります。さらには、本機との接続先の機器の電源も同様に、本機と同じ電源コンセントに接続される事が望ましいです。

また、BALANCED OUT出力をPOSTモードで使用する場合に、本機のプリアンプ・コントロールの設定によっては、出力レベルの低い事がありますので、受け側の機器で適切なレベル調整を行って下さい。

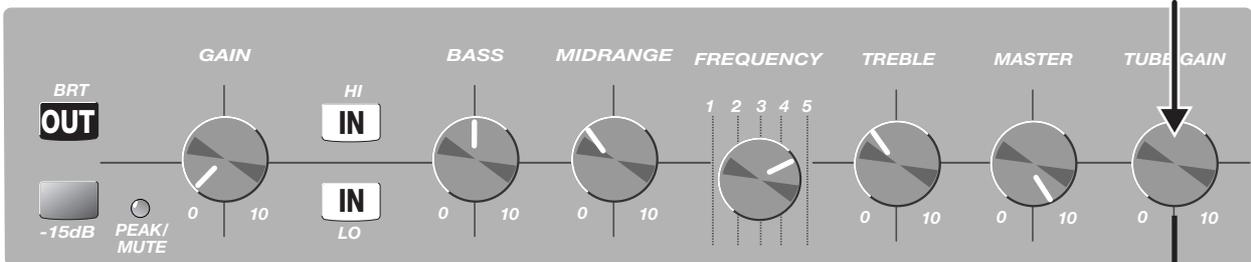
基本設定例

ロック



お好みに応じて可変

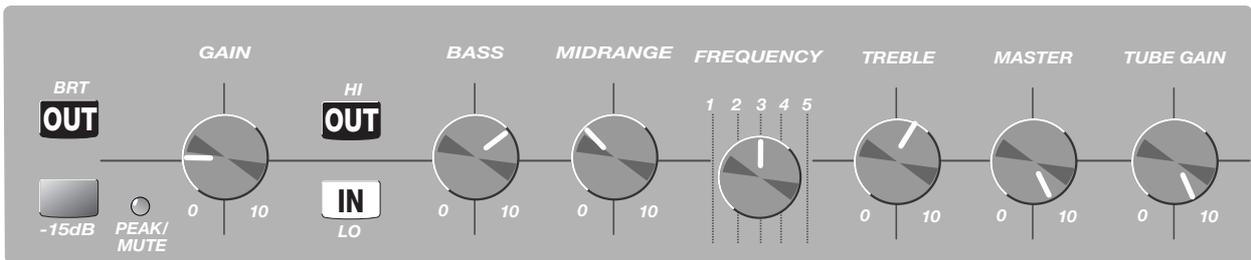
ジャズ



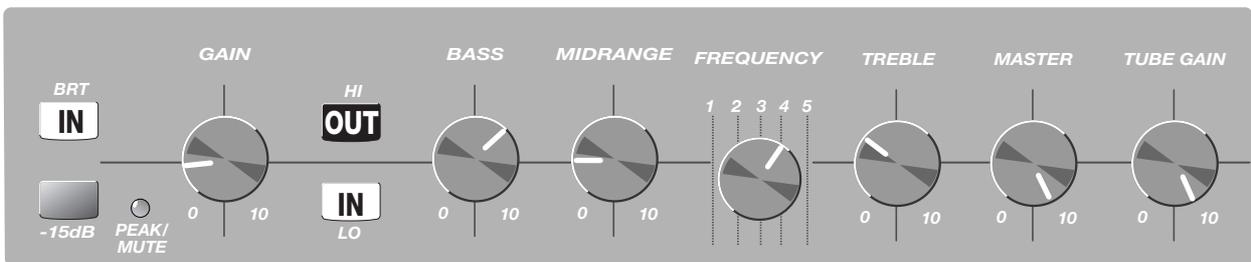
お好みに応じて可変

“10”に設定するとクリーンなサウンドが得られます。
 “5”に設定するとややソフトなサウンドが得られます。
 “0”に設定すると非常にソフトなサウンドが得られます。

カントリー



ファンク“スラップ奏法”

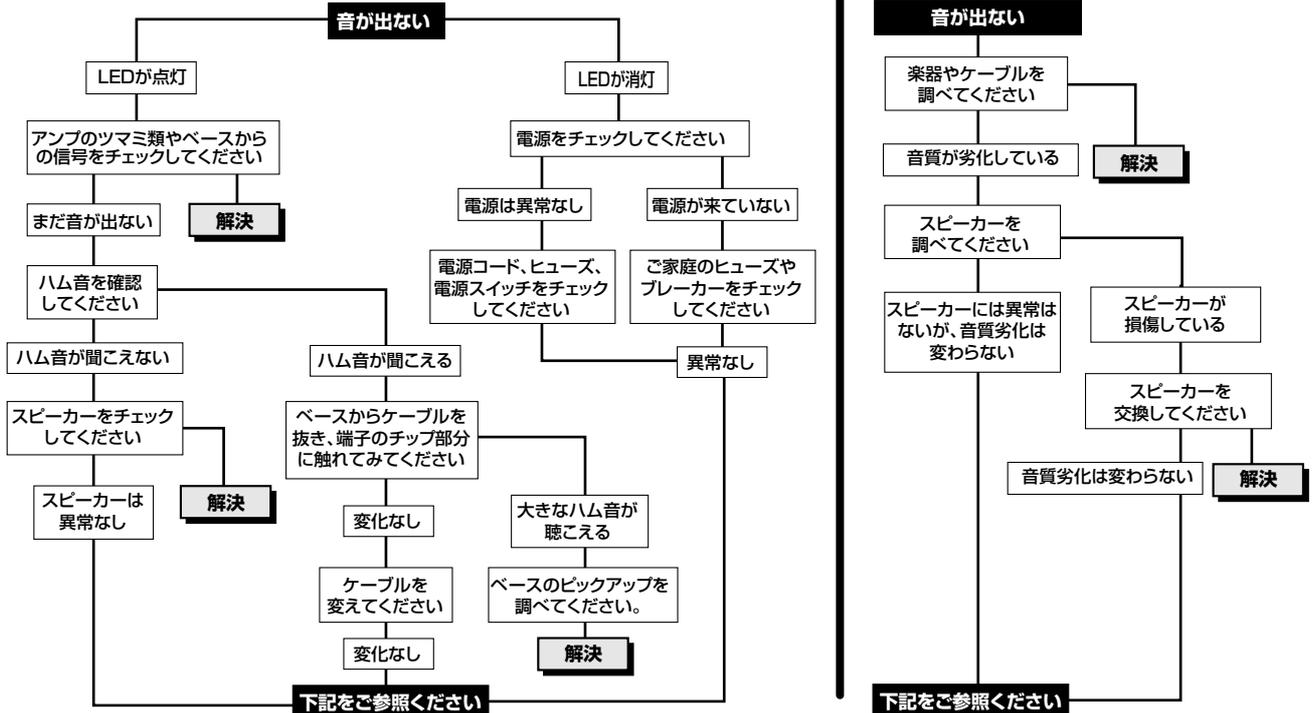


グラフィックEQには、次の2種類の使い方があります。

- 1) お好みの周波数帯域を微調節して、ベースの音色を調節する。
 この場合は、演奏中は常にEQをオンにして使用します（演奏する会場が変わったときに、会場の音響特性に合わせて音色に調節するのに便利です）。
- 2) 変化幅を大きめに設定して、全く異なる音色を作る。
 この場合はベースソロ演奏時など、二番目のチャンネルが必要なときのみ、グラフィックEQをオンにします。

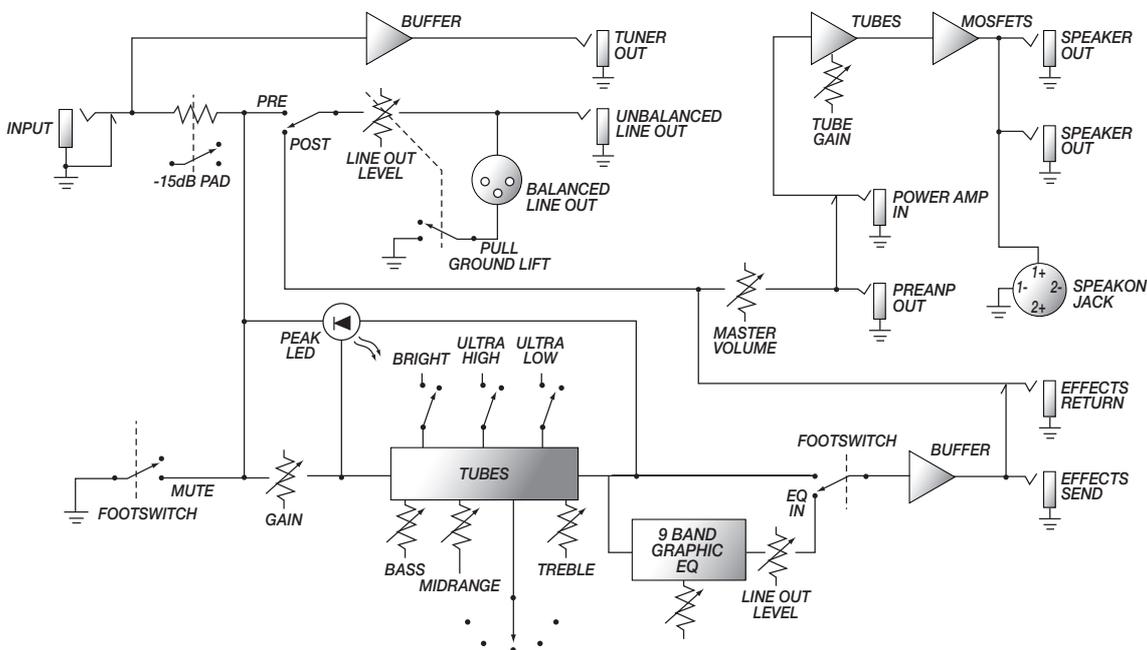
故障かな？と思われる前に

万が一SVT-3 PROが正常に作動しないとき(あるいは単に音が出ないとき)は、ヤマハ修理ご相談センターに連絡する前に、以下の項目をチェックしてください。お客様がご自身で以下の項目をチェックなされば、時間や費用の節約になるばかりか、多くの場合簡単な方法で正常な状態に戻すことができます。



上記の項目をチェックしても症状が改善されないときや“下記をご参照ください”の項目まで進んだとき、その他アンプを高所から落下したとき、アンプ内部に液体が流れ込んだとき、電源コードが損傷を受けたときも、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

システムブロック図





技術仕様

出力	450W、負荷4、100VAC時 275W、負荷8、100VAC時
トーンコントロールレンジ	
BASS :	± 12dB@50Hz
MIDRANGE :	± 15dB@中央周波数：220Hz / 450Hz / 800Hz / 1.6kHz / 3kHzより選択
TREBLE :	+ 14dB / - 19dB@5kHz
グラフィックEQレベル	± 10dB
グラフィックEQレンジ	
33Hz	± 15dB
80Hz	± 8dB
150Hz	± 8dB
300Hz	± 8dB
600Hz	± 8dB
900Hz	± 8dB
2kHz	± 8dB
5kHz	± 9dB
8kHz	± 10dB
BRIGHTスイッチ	+ 6dB@2kHz
ULTRA HIGHスイッチ	+ 6dB@5kHz
ULTRA LOWスイッチ	+ 2.5dB@50Hz - 12dB@560Hz + 1.5dB@5kHz
SN比	75dB(標準)
フットスイッチ端子	グラフィックEQ オン / オフ、 ミュートオン / オフ (TIP = ミュート、RING = EQ)
真空管	12AX7 × 4、12AU7 × 1
対応電源	国内モデル：100VAC、50 / 60Hz
寸法 / 重量	44.2cm(48.3cm / ラックマウント金具含む × 10.2cm(脚を含む) × 39.4cm / 約11.7kg

本製品の仕様は、品質向上のため予告なく変更することがあります。

Ampeg[®]

ampeg.jp